

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/A・B)

事業所番号	2775802131		
法人名	みとうメディカル株式会社		
事業所名	みとうグループホーム花の里		
所在地	大阪府大阪市平野区長吉出戸4-1-5		
自己評価作成日	令和6年3月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和6年3月28日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人がその人らしく過ごして頂けるように個別ケアに努めている。</li> <li>・おひとりおひとりが、笑顔で楽しく過ごして頂けるように関わりをもつように努めている。</li> <li>・明るく、穏やかなホームであり続けている。</li> <li>・独自のメニューで調理をし、盛り付けを行っている。</li> <li>・スタッフの年齢層が幅広く様々な刺激がある。</li> <li>・退屈しない日々を過ごしていただくようにレクリエーションを工夫している。</li> </ul>
--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成18年に別法人のもと開設された当事業所は、令和5年9月より保育・医療・介護事業などを展開するみとうメディカル株式会社傘下での運営となり、事業所一丸となってより充実したグループホームを目指している。社長から事業所に向けて職員を思いやるメールや幹部達の来訪時の声かけは優しく、職員のやる気に繋がっている。上層部、管理者、職員のコミュニケーションは良く取れており、その関係性はとても良い。利用者と職員の関係はほんわかとして暖かく、今のこの雰囲気がこのまま続くようにと管理者、職員は同じ思いを語る。利用者3名が食卓を拭き、台所で職員と一緒にテキパキと食材の仕訳をしている利用者の姿は生き生きとしている。常に利用者の気持ちに寄り添い、より快適な暮らしに向けての支援をしている。春に向かい花見や花の里まつり、盆踊りなど行事を計画中である。</p>
--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と連携し、家庭的な環境のもとで生活して頂けるよう事業所の理念をつくり、職員と共有している	事業所理念「地域に愛され信頼されるホームを目指します・家庭的な環境と地域住民との交流の下で尊厳あるその人らしい生活を目指します」や月間目標(3月の目標「全ての人にコミュニケーションをはかろう」)を玄関や各ユニットに掲示し、家族・来訪者への周知や職員への意識付けを行っている。毎月のミーティング時には全員で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な散歩や外出のイベントを実施し、地域の方との交流を行っている	利用者との玄関先の掃除や散歩時で近隣住民と挨拶を交わすなど日常的な交流を心がけている。以前入居していた利用者の家族が地域活動をしており、得た情報を事業所に提供している。自治会加入、ボランティア受入れ、子ども達との交流などはコロナ禍以降できていない。	地域住民の一員として自治会加入や保育園、学校行事への参加など地域との交流や、事業所から地域に向けての様々な情報発信に積極的に取り組み、地域との協力関係を築いていくことを望む。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の会長などへ挨拶へ行き、地域のイベントなどへの参加希望を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施し、地域や地域包括支援センターや家族の意見を聞き、サービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議は開催されている。構成メンバーは利用者・家族・地域包括支援センター・地域住民・事業所側となっており、運営状況、行事、事故・ヒヤリハット報告などを行っている。議事録とともに家族の意見・要望を記入する項目を設けており、返信用封筒を同封して全家族に郵送している。出された意見・要望については迅速に対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム内で生じた課題を区役所のケースワーカーや地域包括支援センターに報告相談し問題解決に繋げている。	平野区の保健福祉課で入居時に請求面での相談や介護保険の更新、生活支援課では入居者の約半数の生活保護受給者の書類手続きをしている。生活状況の把握のためケースワーカーが年1回事業所に来訪している。地域包括支援センターでは後見人の件で相談したりと協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や研修を定期的に行い、実施。スタッフには、研修を通して、普段のケア等見つめなおし、また理解してもらえるようにおこなっている。 委員会では、会社全体で会議をおこない、些細なことでも身体拘束や虐待に繋がるようなことがないか話し合いをおこなっている	「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、委員会は2か月に1回、研修は年2回実施している。全職員がレジュメ(要約した資料)の閲覧で共有し、周知徹底を図っている。感想欄には全員の記入がある。センサーマットは家族の同意を得て1名が使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何気ない一言が虐待に繋がったり、生じることもあるため研修を実施し、理解を深めてもらっている。身体異常の変化にいち早く気づき再発・防止に努めている。管理者や職員同士のコミュニケーションを多く図り、ストレスがたまらないように気を付けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている利用者が複数おり、職員と申請方法や制度など情報共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明をし、納得していただき契約を実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ参加されない家族にも報告書と一緒に返信用の用紙入れて、ご意見やご要望をいただけるようにしている。ラインを活用し、家族へのこまめな報告をし、意見をいただいている	全家族へ返信用封筒を同封した意見・要望の記入用紙の送付やラインなどを活用し、家族からの質問や要望をいただけるようにしている。希望するイベントを取り上げて企画した行事や写真を増やすなど家族の声を反映している。料金の支払方法でこれまで現金が振り込みであったのが、家族の要望で、現在、引き落としが可能になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	早急な対応が必要な場合は、緊急会議を開催。管理者は、現場内外にて、スタッフと良好な関係を保ち、意見等を聞くことができている。毎月スタッフミーティングを実施している	職員は、災害備蓄品管理・排泄用品管理・訪問美容・行事担当などの役割分担で運営に関わっている。毎月のミーティング、年2回の管理者との面談や日常的にも職員の思いを聞き、意見や提案の把握に努めている。看取りの一人介助を職員の要望で二人介助に変更した。利用者に合わせた座り心地の良いソファを本部から探し出し、譲り受けた例などがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部で経営状況をふまえたうえで管理者や職員との面談を定期的実施し、貢献度、心身の状況報告、勤務姿勢等を話し合い給与水準に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者代理が現場に入り、管理者や各スタッフの能力等を認識している。また、管理者も現場に入り、個別にアドバイスや指導している。外部研修へも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平野区のグループホーム連絡会開催はないがメールなどを通して情報交換やアドバイス等いただいている。グループラインを利用し、他事業所と連携している。管理者間は他事業所を定期的に相互訪問している		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接をおこない、ご本人の生活歴等の情報収集をする。また、不安や困りごとをくみ取り、できる限り対応できるように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談をおこない、ご家族のその時の困りごとや不安を理解・把握し対応できるようにアプローチに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをおこない、他機関との情報を元に、双方の話を聞き、ご本人にとって1番いいサービスが提供できるように努めて居る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが同じ目線にたち喜怒哀楽を分かち合いながら過ごしている。 できることは、一緒におこなってもらい、達成感を分かち合っている。入居者の生活の場で有る事を意識し支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナが5類になり面会や家族との外出や外泊を再開している。電話やラインでも定期的に交流できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の再開につき、友人や知人との面会も再開している。定期的に訪問あり交流されている。	2か月に1回家族との外食や子どもの経営する美容室に行くため月1、2回外泊する利用者、定期的に来訪する知人など馴染みの人たちとの関係の継続を支援している。携帯電話を持ち、家族とお喋りを楽しんだり、歌が好きで週1回カラオケを楽しんでいる利用者がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段過ごして頂いている中で居室を訪れて、お話しされたり、フロアで一緒にゴミ箱作られたり、洗濯物を干したりたたんだりされる姿をよく目にし、微笑ましく思います。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サービス等についての相談、助言を必要に応じて、出来るように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活習慣を把握し、画一的ではなくその人らしく生活を送ってもらえるように職員間で情報共有し、本人視点に立ち考え話し合いをおこなっている。	入居時のアセスメントシートや日頃の何気ない会話から利用者の希望や意向の把握に努めている。意思疎通の難しい利用者には声のトーンやしぐさから思いを汲み取り、職員間で情報共有している。車でドラッグストアに買い物に行ったり、近くの喫茶店でミルクケーキを飲んだり利用者の意向に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族または、ご本人との関わりが深かった方々から情報収集をおこない、これまでの生活歴等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の言動や行動、日々の様子をケース記録に記入し、スタッフ間で把握、共有を実施・検討しケアに活かせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族、関係のある方々からの情報を元に話し合いし、作成している。担当者会議にも多くの職員の参加を実施している	介護計画は長期目標を1年、短期目標を6か月とし、本人・家族の意向や希望を反映し作成している。モニタリングは月1回行っている。状態の変化時には家族に相談し、意見・希望を取り入れ、担当者会議を開催し、医師や関係者の意見を反映して家族の同意のもと現状に即した介護計画の更新を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議では、ケアプランの確認を行い、生活記録・介護記録、申し送りノートなどの活用を図り、こまめに記録やミーティングで情報共有に努めケアの見直しを行い、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所での食事以外に個々に嗜好品を用意し、食べたいときに提供している。外部の医療機関への受診の付き添いや送迎等柔軟の対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動など以前参加していた地域活動などに再度参加していくよう努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に協力医療機関をかかりつけ医として、月2回の往診・健康管理の支援あり。 必要時専門医への受診をご家族様の協力のもとおこなっている。	入居時に利用者・家族と相談し、全員が事業所の協力医をかかりつけ医とし、内科(月2回)の訪問診療を受けている。精神科の訪問診療を受ける利用者は内科・精神科で1回ずつとし、歯科は希望により月4回の訪問診療を受けている。受診内容はケース記録により職員間で共有し、家族には電話またはラインで報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、入所者様の体調等の些細な変化にも気づき、協力医療機関の看護師に報告・相談し指示を仰いでいる。 また、経過報告等も引き続きおこなっており、こまめに報・連・相をおこない情報の共有に努める。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は、ご家族等と入院先の関係者とこまめに連絡を図り、情報の共有や相談を実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を聞き、主治医と話し合いをおこない、ご家族には事業所での出来事を説明し理解して頂いたうえで、終末期ケアをおこなっている。残された時間を家族と有意義に過ごせるように支援している。 職員には、ミーティング等で話し合いをし、周知支援に取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合における(看取り)指針」について利用者・家族に説明し、同意を得ている。重度化の際、医師が家族に説明し、事業所での看取りを希望の場合、医師・看護師・職員で話し合い、終末期ケアプランにより方針を共有し、意向に沿った看取りを行っている。前年度は4名の看取りを行い、家族から感謝の言葉を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所から職員に応急手当普及員の資格を取得してもらい、訓練や研修を定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出火があれば装置も作動し、消防署へ通報できる。災害時のための避難訓練をおこなっている。地域の方の避難も受け入れ体制が整っている。	年2回避難訓練を行っている。昨年7月は火災の夜間想定で消防振興協会による指導の下、通報・避難経路確認を行った。役割分担を明確にし、事業所横に住むオーナーも参加し、避難後の見守りを行った。本年2月は火災・水害による避難訓練を行い、終了後は報告書を全員が回覧し周知を図っている。備蓄は水・食料品等を3日分2階に保管している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しながら配慮ある声掛け・対応に努めています。また、研修を実施し、職員の認識を深めている。	昨年8月にプライバシー保護、9月に接遇の研修を行っている。親しみの中にも丁寧で節度ある言葉掛けを行い、不適切対応には管理者が注意しているが、職員間でも注意合っている。個人情報関連書類は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	近くのコンビニや衣料量販店などに買い物に行き、自身の好みの物等を選んでいただいている。着替えの服等出来ることに関しては、自己決定が出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本位、その人がその人らしくを念頭に、その人のペースに合わせた支援が出来るように努めている。入浴等なるべくご希望に沿った日に行えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服や身につけるものを選んだりして、その人らしさを大事にしています。2~3か月に1度訪問美容の方に来ていただき、カットしている。整髪など職員より声掛け実施している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることをお手伝いしてもらいながら、一緒に物を一緒に食べ、食事の時間を楽しんでいます。	系列会社による献立・食材を調理専門職員が調理し提供している。食事時にはテーブルを拭き、キッチンとダイニングを忙しく行き来する利用者の姿が見られた。レク担当者会議では手作りおやつ、バーベキュー、レストランでの食事など10月までのレクレーションを決め、リビングに掲示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	偏りのないメニュー作りに心掛け、個々に合わせた量や食事形態で提供し、水分は提供方法や水分内容を変え提供している。また、個人の好きな飲み物やジュース等工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の状態に合わせた口腔ケア実施している。また、月に4回訪問歯科を利用し、口腔内の清潔保持や衛生状態の確認に努めている。歯科衛生士などより口腔ケアの指導も受けている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としており、現在ほとんどの方がトイレで行えている。状態が改善されるとリハビリパンツ→布パンツに変更するなど、ひとりひとりにあった支援方法を常に検討、実施をおこない、共有している。	おむつ使用者1名を除き、ほぼ自立の状態です。布パンツ使用者は4名、その他はリハビリパンツにパッドを使用しトイレで排泄している。パッド使用についてはミーティングで検討し、使用したくない・大きさを変えるなど利用者それぞれに合った排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を意識したメニュー作りを心かけている。個々に水分補給の回数を増やしたり、寒天の提供をおこなっている。また、排泄しやすいように体操等おこなったりしている。ミーティング等でも、話し合いをおこない共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、週2回の入浴が基本であるも、突発的な入浴が必要が生じた場合は、回数関係なく入浴していただいている。曜日や時間問わず、基本的に希望に応じた対応をしている。ゆず湯や菖蒲湯おこない、季節を感じていただいている。	入浴は週2回の午前中としているが、出来る限り利用者の意向に沿うようにしている。入浴拒否の利用者にはタイミングを見計らうことはもとより、汚染時の洗浄で「ちょっと来てください」から「足を洗わせてください」、漸く湯舟にたどり着く状況である。マンツーマンで支援しているので利用者との会話を楽しむ事を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、その人がその人らしく過ごして頂けるように、自由に過ごして頂いているが、ご自身にて判断が難しい方は、疲れている時や夜間睡眠がとれていない時や体調の状態等に合わせて、休息できるように努めている。 買い物や散歩など少しでもリフレッシュして頂くように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・看護への報告・連絡・相談は、その都度おこなっている。薬の変更や増減時や服薬方法変更等の際には、些細なことでも細かく介護記録へ残すよう実施している。 個々の状態に合わせて服薬方法の検討、変更にて対応している。 研修を実施し、薬についての理解を深めるよう努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを発揮できる環境作りを努めている。洗濯物干しや畳み、食器洗い、拭き等を日課とされている。 事業所をご自身の職場と思っている方もおり、率先してお手伝いして下さる。 買い物や散歩、庭で外気浴等気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩などに行ったり、時折花の水やりをおこなったり、外気浴等で気分転換を図っている。	昨年5月にコロナ感染症が5類に分類されてからは積極的な外出支援を行っている。事業所近くの大衆演劇を見に出かけたり、管理者が車で外出の際には利用者に声をかけ一緒に出掛けるようにしている。家族と外出し、食事を楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際にはご自身にてお財布を持っている方は、買い物に行った際にレジにて支払いしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在、手紙を出せる方はいないが、出来る方がいれば都度対応する。自宅等に電話したいとご要望があれば、電話したり、取り次いだりに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良い日にはガーデンパーティーを行ったり、フロアや廊下には、ソファやイスがあり、ゆっくり過ごして頂けるようにしている。 また、庭や玄関先には季節のお花を飾っている。	リビング兼食堂は、大きなテーブルで四角く囲むように配置され、利用者それぞれが顔を見ながら食事がとれるようになっている。壁面には時計、手作りカレンダー、ひな祭りの折り紙細工、イベント時の写真などが掲示されている。ゆったりとくつろげる利用者お気に入りのソファもあり、快適な共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、入所者同士が一緒に座り、寛いだり、お話しできるスペースがある。 また、居室でも寛ぐことが出来る空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の際に、ご本人馴染みのもの等をもっていただき、居室に置いてもらえるように案内している。 仏壇やご家族の写真や家具等持ってきている方がいる。	居室入り口には花びらの折り紙飾りをあしらった写真付きの表札がある。エアコン、ベッド、防災カーテン、換気扇が備え付けである。利用者持参の高めの収納家具を突っ張り棒で固定し、安全面にも配慮されている。九州在住の娘からの花束や家族写真、仏壇、ぬいぐるみ等を置き、居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、個々の身体機能に合わせてポータブルトイレやポール等設置し工夫に努めている。 また、身体機能の状態に合わせてベットやポールの位置や居室環境の変更も実施している。		